

令和2年産米の稲作反省と次年度対策

1 令和2年産米の作柄と品質の概況

阿賀野市の令和2年産の作柄は、長梅雨（7月～8月上旬）や8月下旬～9月中旬まで続いた猛暑の影響を強く受け、平年に比べ収量・品質とも「やや不良」となりました。

品種別では、「こしいぶき」の作柄はやや良かったものの、「コシヒカリ」や「新之助」ではやや不良となりました。

品質面では、カメムシ類が多発生し、斑点米での等級低下が早生だけでなく、コシヒカリにも多発生し格落ちが多くなりました。

栽培面では、長雨と日照不足による草丈の伸長等によりコシヒカリの倒伏が多発生しました。

また、病害虫では新之助で葉いもちが多発生、育苗ではばか苗病が多発生し本田での発生も多く見られるなど次年度の対策が必要となっています。

表1 作柄概況と1等級比率(主食用米 10月末現在)

作況	品質	1等級比率(%)		
		区分	コシヒカリ	こしいぶき
下越北	100 (平年並)	J A 北蒲みなみ水原	62.9	88.6
		J A 北蒲みなみ安田	29.6	74.3
新潟県	103 (やや良)	J A 北蒲みなみ京ヶ瀬	56.7	87.4
		J A ささかみ	77.1	86.3
全国	99 (平年並)	阿賀野市全体	61.4	83.3

2 作柄や品質に影響した主な事項

穂数
早生: やや少
中生: やや少
晩生: やや多

一穂粒数
早生: やや少
中生: やや少
晩生: 並

m粒数
早生: やや少
中生: やや少
晩生: 並～やや多

千粒重
早生: 並
中生: 並～やや少
晩生: やや少

登熟
早生: 並
中生: 並
晩生: 並～やや不良

品質
早生: 並
中生: やや不良
晩生: 並

- ・苗質: 並(育苗期間低温でヤケ苗少)
- ・活着: 並、植傷み並
- ・初期生育並(アオミドロ、表層剥離並)
- ・除草剤の薬害発生並
- ・ほ場の旋回部など深い部分で薬害等生育不良
- ・田植え後の低温、日照少で下位分けつ発生少
- ・5月下旬～6月上旬の好天で分けつ確保進む
- ・ワキ、アオミドロの発生早く早めの落水対応
- ・7月全般は低温・日照不足・多雨で長草化稲体の軟弱化、茎質低下進む
- ・葉色高く推移、穂肥は遅め少なめの対応
- ・一発型肥料の追加穂肥対応も施用少
- ・梅雨明けの遅れ、天候回復はお盆以降
- ・梅雨明け後8月後半～9月半ばまで猛暑
- ・台風に伴うフェーン等で倒伏一気に進む。(9月上旬)
- ・コシヒカリの収穫期降雨多、ほ場の軟弱化刈り取りに苦勞、刈り遅れ発生
- ・カメムシ類の多発生
- ・倒伏、刈り遅れ等による未熟粒多発生

問題となった事項

- ・土作り資材の投入伸び悩み
- ・育苗の早播きによる出芽不良
- ・育苗期間中の高温管理

除草剤使用の注意不足
(ほ場の均平、田植え同時処理後の水管理、アオミドロ対策)

一発タイプ肥料のコシヒカリ等で追加穂肥無施用による後期栄養不足。(収量・品質の低下)

気象変動(高温・強風等)に対する緩衝力の低下

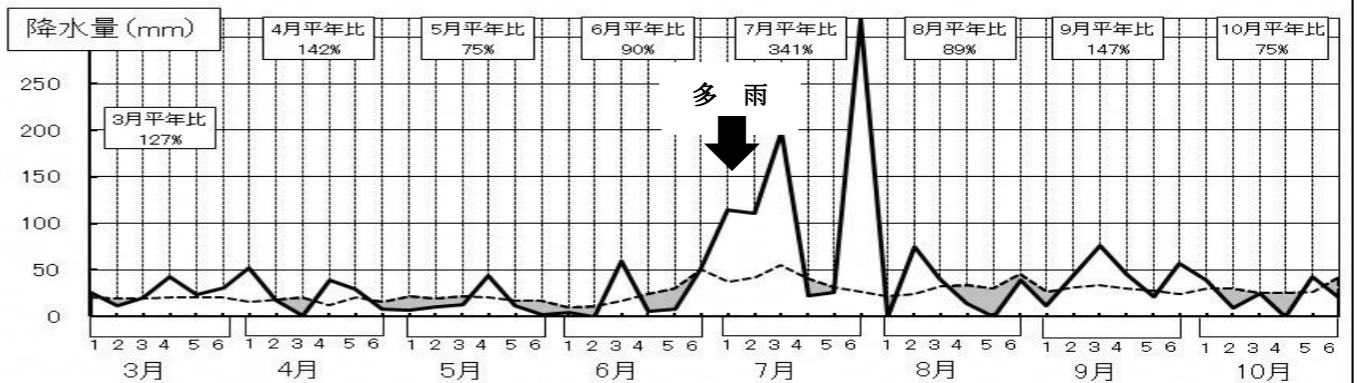
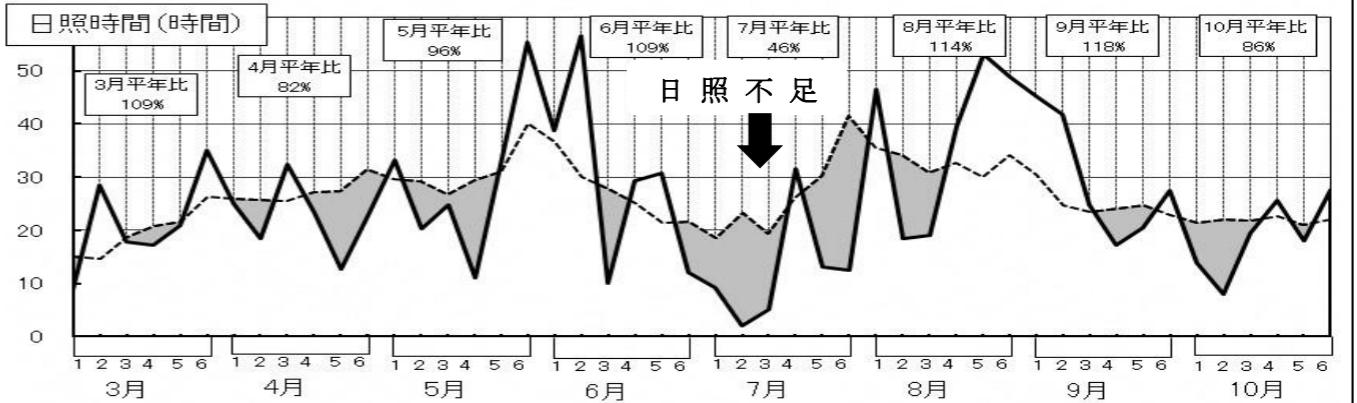
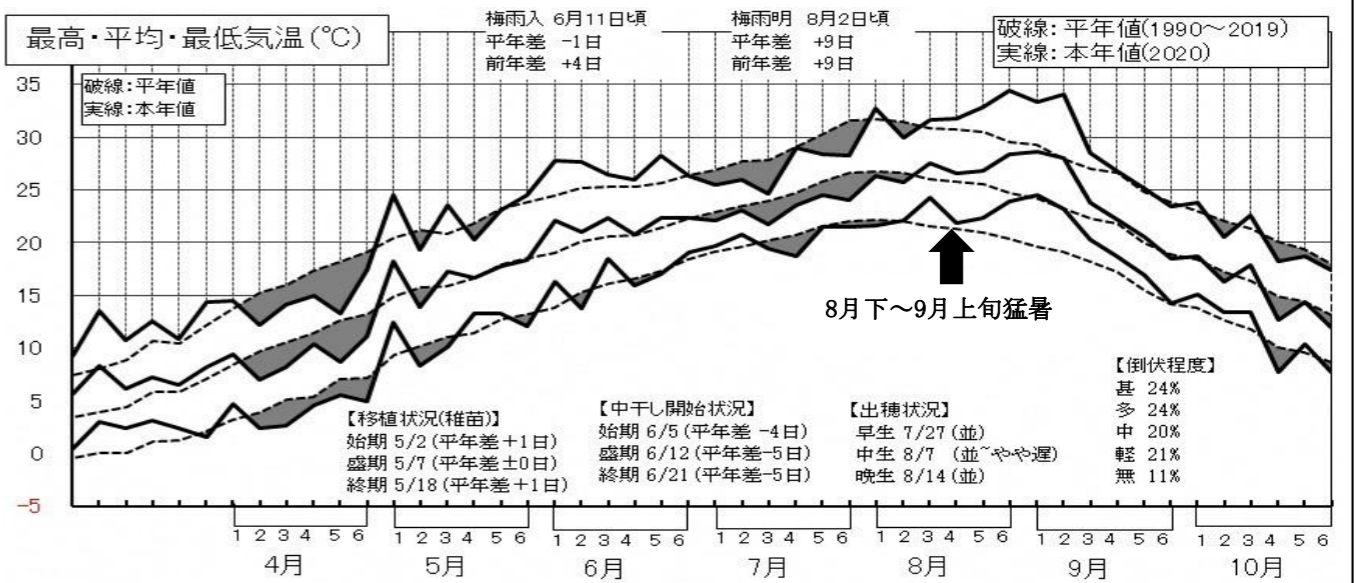
カメムシ類による斑点米の増加(早生だけでなく、コシヒカリにも拡大)

作況指数 100
(下越北)

玄米重 533kg/10a
(1.85篩目収量)

※作況指数: 北陸農政局
10月31日発表10/15現在

3 稲作期間の気象図



4 次年度に向けた課題と対策「気象変動に負けない稲づくり」

1 初期生育安定で早期良質茎の確保

2 災害(高温・強風)に備えた施肥と土づくり

3 カメムシ防除等の徹底

- ・丁寧な耕耘と均平な代かき
- ・健苗の育成と適期移植
- ・除草剤の適正使用(散布後の水管理を徹底)
- ・気象変動に負けない栄養供給(ケイ酸質資材や堆肥等有機質資材の施用による緩衝力の強化)
- ・共同防除+個人防除(適期防除)の徹底(早生だけでなくコシヒカリでも実践)
- ・ほ場内及びほ場周辺のイネ科雑草の草刈り徹底